

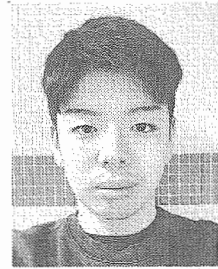
学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】
(3年 岡田朝)

ここ数年で、「3Dプリンター住宅」という言葉がよく聞くようになった。3Dプリンター住宅とは、特殊なモルタルなどの材料を使い、3Dプリンター技術で建設される住居である。壁や柱などの大きな資材は、現地で成型できるので物流費も大幅に減らせるそうだ。このようなことで、強度と耐久性を兼ね備えている住宅を効率的かつ迅速に建設できるなどのメリットがある。日本では22年3月、愛知県小牧市に初めて3Dプリンター住宅が建設され、23年7月25日に二人

③波の第四の不動産業界から見た学生

世帯向け1LDK(50㎡)の3Dプリンター住宅が、なんと44時間30分で完成できたという。このように、3Dプリンター住宅は、予め用意されている均一な建築資材を用いて短期間で完成できることで、建築資材費や人件費が削減でき、大幅なコストダウンができる。二人世帯向け1LDK(50㎡)の販売予定価格は550万円で、一般的に住宅の価格の数分の一で大幅に価格削減ができたという。このような手頃な価格の住宅の提供は、経済的にそれほど余裕がない



【アピールポイント】
千葉県出身で、不動産分野のプロを目指しながら不動産学と空手の文武両道の修練に日々励んでいます。

私のような若年層には希望の光である。重たいローンや家賃の縛りから解放してくれる。また、地球環境問題が深刻化する中、建設現場での破棄物や環境負荷を最小限に抑えることで、地

心が広がりつつある。タイニーハウスは、一人世帯の増加、住宅価格の高騰、経済的不安定などで家賃やローンに縛られることなく自由に生きたい人々には魅力的な選択肢の一つになりつつある。タイニーハウスの供給方法の一つが、上記の岡田君の説明にあった「3Dプリンター住宅」である。最近、タイニーハウスの一つとして、世界的な注目を浴びているのが、イロン・マस्कさんが参画している「1万ドル率の重視などの彼の思想が深く刻み込まれたアプローチ」である。1万ドルチによって進められていることで、今までは違つたことが期待できそう。このように新しい流れは、住宅市場に留まらず、社会全般にも新しい風を吹き込んでくれることを期待する。

3Dプリンター住宅

短期間、低コストだが課題も

球環境にも優しく、持続継続な社会の構築にも貢献できそう。しかし、デメリットもある。地震大国と呼ばれる日本で、住宅の基礎工事の対応がまだ不十分であり、単調なビジュアルに「タイニーハウス」は、日当たりたまたまの状態では、折られたり構造が壊れることを期待する。